

## 令和元年度第2回東北森林管理局林野公共事業事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和2年2月4日 10時00分～12時00分

2 開催場所 東北森林管理局2階大会議室

3 出席者

(1) 技術検討会

会長 高田 克彦

委員 立川 史郎

委員 菊池 俊一

委員 梶本 卓也

(2) 当局出席者（検討委員会委員）

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計画課長

治山課課長補佐

森林整備課長

資源活用課課長補佐

企画調整課監査官（事務局）

森林整備課課長補佐（説明員）

4 議事概要

(1) 事前評価（森林整備事業）

: 三八上北森林計画区（三八上北森林管理署）

: 大槌・気仙川森林計画区（三陸中部森林管理署）

: 雄物川森林計画区（秋田森林管理署・秋田森林管理署湯沢支署）

: 最上村山森林計画区（山形森林管理署・山形森林管理署最上支署）

【質疑応答】

委員：路網整備について、三八上北森林計画区の整備後の搬出距離が他の森林計画区と比較するとかなり短くなっているが、どの計画区も同様な算出方法なのか。また、搬出距離は各計画区の平均なのか。

当局：そうである。計画区全体の平均により搬出距離を算出しているが、それぞれの計画区によって伐採する林小班の位置が異なるため、搬出距離にも違いが出る。

- 委員：路網整備計画とは林道の作設なのか。  
担当局：林業専用道である。
- 委員：今回の計画に森林作業道は含まれていないのか。  
担当局：森林作業道は含まれていない。
- 委員：例えば三八上北森林計画区の事業概要を見ると、更新の面積に対して保育(下刈)面積が約2倍となっているが連動しているのか。また、どの計画区も低コスト化で下刈回数を低減しているが、今回の計画に反映されているのか。  
担当局：更新面積と保育面積が連動しているかについては、前計画で植栽したのも含まれるため直接的には連動していない。下刈回数の低減については、各計画区または署毎に過去の実績に応じた係数をかけて算出し、反映している。
- 委員：大槌・気仙川森林計画区について、事業内容で間伐の面積が約5千ヘクタール組まれている。全体の人工林面積の約半分をアカマツが占めているが、アカマツの間伐もこの間伐面積に含まれているのか。  
担当局：アカマツの間伐も含まれている。
- 委員：チェックリストについて、判定基準に数値が入っている項目についてはその数値の根拠を明確にしていきたい。また、ABC判定に馴染まない項目もあるため、見直しの段階で整理していきたい。  
担当局：本意見に関しては林野庁へ伝えて参りたい。

#### 【技術検討会の意見取りまとめ】

- 会長：本技術検討会の意見として、『森林整備を行うことにより、公益的機能の発揮と木材生産等を通じた地域振興への寄与が期待されることから、事業実施の必要性が認められる。』とする。